

水稲育苗箱専用長期持続型殺虫殺菌剤

Dr.オリゼ[®] アボマイヤー[®] 箱粒剤

イミダクロプリド…………… 2.0%
 プロベナゾール…………… 24.0%
 鉱物質微粉等…………… 74.0%

【毒性】普通物 【有効年限】5年 【包装】1kg × 12袋、9kg × 2袋

農林水産省登録 第21482号

●特長

1. 育苗箱施用で、水稲初期・中期の主要病害虫であるいもち病、白葉枯病、イネミズゾウムシ、イネドロオウムシ、ツマグロヨコバイ、ウンカ類等を同時防除できます。
2. 育苗箱当り50g施用で、長期間にわたって高い効果を示すので、省力的、経済的です。
3. 育苗箱施用だけでなく、側条施用もできます。

●適用病害虫および使用方法

作物名	適用病害虫名	使用量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	イミダクロプリドを含む農薬の総使用回数	プロベナゾールを含む農薬の総使用回数
稲	いもち病 イネミズゾウムシ	1kg/10a	移植時	1回	側条施用	3回以内 (種もみへの処理又は移植時までの処理は1回以内、本田での散布は2回以内)	2回以内 (移植時までの処理は1回以内)
稲 (箱育苗)	いもち病 白葉枯病 イネドロオウムシ イネミズゾウムシ ツマグロヨコバイ ウンカ類	育苗箱 (30×60×3cm、 使用土壌約5ℓ) 1箱当り50g	移植2日前～ 移植当日		育苗箱の苗の上から均一に散布する	3回以内 (移植時までの処理は1回以内、本田での散布は2回以内)	

(平成30年8月8日現在の登録内容)

●使用上の注意事項

- 育苗箱の苗の上から所定薬量を均一に散布し、茎葉に付着した薬剤は払い落とし、そのまま田植機にかけて移植する。
 - ①専用の移植同時施薬機を用い、側条施用する。
 - ②移植後は湛水状態(湛水深3~5cm)を保ち、稲苗が活着するまで田面が露出しないよう水管理に注意する。
 - ③移植後、低温が続く、苗の活着遅延が予想される場合には使用をさける。
- 育苗箱に処理する場合は、次の注意事項を守る。
 - ①育苗箱の苗の上から所定薬量を均一に散布し、茎葉に付着した薬剤は払い落とし、そのまま田植機にかけて移植する。
 - ②軟弱徒長苗、むれ苗、移植適期を過ぎた苗などには薬害を生じるおそれがあるので、必ず健苗に使用する。
 - ③処理苗移植の本田の整地が不均整な場合は薬害を生じやすいので、代かきはていねいに行い、移植後田面が露出したりしないように注意する。
 - ④処理苗を本田に移植したのちは、そのまま湛水状態(湛水深3~5cm)を保ち、稲苗が活着するまで田面が露出しないよう水管理に注意する。
 - ⑤移植後、低温が続く、苗の活着遅延が予測される場合には使用をさける。
 - ⑥誤って過剰に使用したり、本剤使用後3日以上移植せずに育苗箱中におくと葉枯れなどの薬害を生じることもあるので、所定の使用量、使用時期、使用方法を厳守する。
- 本田が砂質土壌の水田や漏水田、未熟有機物多用田は使用をさける。
- 本剤の使用に当たっては、使用量、使用時期、使用方法等を誤らないよう注意し、特に初めて使用する場合には病虫害防除所等関係機関の指導を受けることが望ましい。